

(様式第8号) (第51条の6、第54条の2、第22条関係)

対象事業完了報告書

令和3年2月15日

長野県知事 阿部守一 殿

住所 長野県佐久市上平尾2033番地
氏名 佐久市・北佐久郡環境施設組合
組合長 柳田 清二

対象事業の実施を完了したので、長野県環境影響評価条例第31条第1項（長野県環境影響評価条例第40条第1項において準用する同条例第31条第1項）の規定により、下記のとおり送付します。

記

対象事業の名称	新クリーンセンター建設事業
対象事業の実施を完了した年月日	令和2年11月30日
対象事業に着手してから対象事業の実施を完了するまでの環境の保全のための措置の状況	評価書に基づき実施（詳細は別紙）
対象事業に着手してから対象事業の実施を完了するまでの対象事業の実施状況	別途図面のとおり ○造成工事（平成28年7月～平成30年2月） ○建設工事（平成29年3月～令和2年11月）

(備考) 必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること

目 次

1. 環境の保全のための措置の実施状況	1
1.1 環境保全措置実施状況	2
1.2 環境影響評価準備書に対する知事意見への対応状況	4
1.3 供用時における環境保全措置内容	5
2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真	7
2.1 対象事業実施区域の位置図	8
2.2 工事工程表	9
2.3 造成計画平面図、断面図	10
2.4 全体配置図、立面図	12
2.5 施工完了写真	18
2.6 主な設備	22

1 環境の保全のための措置の実施状況

1.1 環境保全措置実施状況

調査対象事項		関連項目	環境保全措置の内容		参照資料	評価書掲載頁	
			評価書掲載	実施状況			
工事関係車両の走行	1	走行時間の分散	大気質、騒音、振動、触れ合い活動の場	工事関係車両の走行が集中しないよう走行の時期・時間の分散に努める。特に朝の通学時間帯は極力避けるように配慮する。	令和2年10月30日 施工状況等報告書	大気質：p5-1-72 騒音：p5-2-14 振動：p5-3-12 触れ合い活動の場： p5-15-16	
	2	交通規制等の遵守	大気質、騒音、振動、触れ合い活動の場	工事関係車両は、速度や積載量等の交通規制及び指定走行ルート、標示規制等を遵守するよう指導する。			
	3	アイドリングストップ・エコドライブの励行	大気質	工事関係車両のアイドリングストップ・エコドライブを徹底する。			
	4	土砂搬運車両等のタイヤ洗浄	大気質	建設地から退出する工事関係車両等のタイヤ等の洗浄を行い、粉じんの飛散防止を図った。	令和元年10月31日 施工状況等報告書	p5-1-72	
	5	工事用車両出入り口の路面洗浄等	大気質	建設中の構内道路への散水や鉄板の敷設等を行う。	令和2年10月30日 施工状況等報告書	p5-1-72	
	6	土砂搬出車両荷台のシート掛け	大気質	土砂を搬出入する場合の車両荷台へのシートの敷設を行う。		p5-1-72	
	7	交通整理員の配置	触れ合い活動の場	スキー場の営業期間中については、必要に応じて交通整理員を配置するなど、出入口付近での車両の交錯を防止する。		p5-15-16	
	8	北パラダを利用する一般車両への配慮	触れ合い活動の場	スキー場の営業期間中については、来場者が多くなる土・日曜日の工事関係車両の走行を避けるように努めた。		p5-15-16	
建設機械の稼働	1	対策型建設機械の使用（排ガス対策型、低騒音型、低振動型）	大気質、騒音、振動、動物、生態系、触れ合い活動の場	建設機械は、排出ガス対策型、低騒音型、低振動型の使用や低騒音型・低振動型工法の採用に努める。	令和2年10月30日 施工状況等報告書	大気質：p5-1-84 p5-1-90 騒音：p5-2-24 振動：p5-3-22 動物：p5-12-70 生態系：p5-13-28 触れ合い活動の場： p5-15-18	
	2	建設機械稼働時間の抑制	大気質	建設機械は、アイドリングストップを徹底する。			p5-1-84
	3	建設機械稼働時間の分散	騒音、振動、触れ合い活動の場	建設機械の稼働台数が集中しないよう工事の時期・時間の分散に努める。			騒音：p5-2-24 振動：p5-3-22 触れ合い活動の場： p5-15-18
	4	工事区域の仮囲い・遮音壁の設置	大気質、騒音	建設地周辺へ工事用仮囲いを設置する。必要に応じて対象事業実施区域境界に遮音壁を設置する。			大気質：p5-1-90 騒音：p5-2-24
	5	工事区域への散水等	大気質、植物、生態系	建設中の構内道路への散水や鉄板の敷設等を行う。散水を実施することで、粉じんの発生を防止し、周辺に生育する植物への影響を低減する。			大気質：p5-1-90 植物：p5-11-23 生態系：p5-13-28
土地造成、掘削、樹木の伐採	1	安全な掘削方法の検討	地形・地質	掘削工法の検討に当たっては、土地の安定性に十分に配慮する。	平成31年1月31日 施工状況等報告書	p5-10-35	
	2	計画・設計時の配慮	地形・地質	施設計画において、安定計算の実施、マニュアル等に基づく適切な設計、浸食防止排水溝の設置等を行う。	参考資料1 (非公開)	p5-10-35	
	3		地形・地質	切土工事に際し、仮排水路への排水ができるようにし、沈砂池に集水して濁水の土砂を沈殿させてから放水する。			平成29年1月27日 施工状況等報告書
	4		工事計画の配慮	触れ合い活動の場	パラダの営業期間中の工事については、事業者と十分な協議を行い、スキー客への影響が極力小さくなるよう配慮する。	令和2年10月30日 施工状況等報告書	p5-15-18
	5	広範囲の裸地化の抑制	水質	段階的な切盛り工事の実施などの工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制する。	平成28年10月31日 施工状況等報告書	p5-6-15	
	6	工事区域外からの流入抑制	水質	工事区域の外周に仮設の雨水排水路を設置し、工事区域外からの雨水の流入を抑制し、濁水の発生量を低減する。	令和2年10月30日 施工状況等報告書	p5-6-15	
	7	造成工事の休止	水質	台風、集中豪雨等が予想される場合には、造成工事を行わない。	参考資料2 (非公開)	p5-6-15	
	8	造成面等からの濁水発生対策	水質	台風、集中豪雨等が予想される場合には、造成面、仮置き残土等へのシート、土嚢による養生等の対策を講じる。	平成31年4月26日 施工状況等報告書	p5-6-15	
	9	沈砂池等の設置、維持管理	水質	十分な貯留容量を有する沈砂池を設置し、雨水を一時的に貯留し濁水の土砂を沈殿させてから放流する。	平成31年1月31日 施工状況等報告書	p5-6-15	
	10	雨水排水の濁りの監視	水質	降雨時には速やかに雨水排水の濁りの状況を目視により確認し、濁りが認められた場合には濁水を沈降させ、上澄みを放流する。	平成31年4月26日 施工状況等報告書	p5-6-15	
	11	雨水排水の水温の監視	水質、植物、動物、生態系	排水温度の変化に伴う動植物への影響の可能性の観点から、放流水の水温について監視する。	令和2年7月31日 施工状況等報告書	水質：p5-6-15 植物：p5-11-23 動物：p5-12-70 生態系：p5-13-28	

調査対象事項		関連項目	環境保全措置の内容		参照資料	評価書掲載頁	
			評価書掲載	実施状況			
土地造成、掘削、樹木の伐採	12	揚水量を低減する掘削工法等の検討	水象	揚水量を低減する効果的な掘削工法等を検討する。	揚水量を低減する効果的な掘削工法等を検討した。その結果、掘削が帯水層に至らないことが判明したため、揚水量を低減する効果的な掘削工法を採用する必要はなかった。なお、地下水位への影響は見られなかった。	平成29年6月 事後調査報告書	p5-7-8
	13	止水壁等の設置による水位低下の防止	水象	止水壁を透水性の低い層まで設置する等により地下水位低下の防止を図る。	止水壁を透水性の低い層まで設置する等により地下水位低下の防止を図った。その結果、地下水位への影響は見られなかった。	平成30年6月 事後調査報告書	p5-7-8
	14	コナラ林の改変の回避	生態系	対象事業実施区域南側のコナラ林の改変を回避する。	対象事業実施区域南側のコナラ林の改変を回避した。	平成28年7月28日 施工状況等報告書	p5-13-28
	15	対象事業実施区域境界の林縁保護	植物、動物、生態系	対象事業実施区域境界に適宜防風ネットや遮光ネット等を設置することで、樹木の保全を図る。	対象事業実施区域境界に適宜防風ネットや遮光ネット等を設置することで、樹木の保全を図った。	令和2年7月31日 施工状況等報告書	植物：p5-11-23 動物：p5-12-70 生態系：p5-13-28
	16	対象事業実施区域周辺で営巣が確認された場合の工期変更等	動物、生態系	対象事業実施区域の近隣で希少猛禽類の営巣が確認された場合には、工事時期や手順、監視等について検討を行う。	対象事業実施区域の近隣では営巣や繁殖を示唆する行動は確認されなかった。対象事業実施区域の周辺ではノスリの営巣を平成28年から平成30年、ハチクマの営巣を平成30年に確認したが、工事に対する警戒行動等（作業員に対する威嚇や工事の作業音に驚いて逃避する等）は確認されなかったことから、工事時期や手順、監視等についての変更は行わなかった。	—	動物：p5-12-70 生態系：p5-13-28
17	工事関係者への啓発（動植物等）	植物、動物、生態系	工事関係者及び作業員に対して、対象事業実施区域外への不用意な立ち入りや工事用車両の空ぶかしや急発進等による騒音の発生の抑制などの指導を行う。	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底及び管理を行った。	令和2年10月30日 施工状況等報告書	植物：p5-11-23 動物：p5-12-70 生態系：p5-13-28	
舗装工事・コンクリート工事	1	中和処理	水質	アルカリ排水について、環境基準内（pH8.5以下）に中和処理を行った後排水する。	アルカリ排水について、環境基準内（pH8.5以下）に中和処理を行った後排水した。	令和2年7月31日 施工状況等報告書	p5-6-17
	2	水素イオン濃度の監視	水質	コンクリート工事に伴うアルカリ排水について、pH計を用いてpHの監視を行う。	コンクリート工事に伴うアルカリ排水について、pHの監視を行った後に排水した。	—	p5-6-17
発生土、建設廃棄物、伐採木	1	建設発生土の再利用	廃棄物等	掘削土砂については本事業の敷地内や他事業での再利用に努め、残土の発生を抑制する。	掘削土砂については本事業の敷地内や他事業での再利用に努め、残土の発生を抑制を図った。	令和元年10月31日 施工状況等報告書	p5-16-4
	2	公共事業等での有効利用	廃棄物等	場外搬出する残土については、他の公共事業での有効活用を図り、処分量の低減を図る。	場外搬出する残土については、他の公共事業での有効活用を図り、処分量の低減を図った。	—	p5-16-4
	3	アスファルト・コンクリート塊、木くず、伐採木等の再生利用	廃棄物等	再利用の促進を図るため、アスファルト・コンクリート塊、木くず、伐採木等は可能な限り資源として再生利用する。	再利用の促進を図るため、アスファルト・コンクリート塊、木くず、伐採木等は可能な限り資源として再生利用した。	平成31年1月31日 施工状況等報告書	p5-16-4
	4	現場での分別排出	廃棄物等	発生した廃棄物については、可能な限り現場で分別を行い排出する。	発生した廃棄物については、可能な限り現場で分別を行い排出した。	令和2年10月30日 施工状況等報告書	p5-16-4
	5	適正な管理（土壌）	廃棄物等	自然由来により残土が汚染されている場合もあることから、処分方法に応じた適切な搬出の管理を行う。	自然由来により残土が汚染されている場合もあることから、処分方法に応じて搬出量とその搬出先を記録し、問題が発生した場合でも迅速に対応できるよう適切な搬出の管理を行った。	参考資料3 (非公開)	p5-16-4

1.2 環境影響評価準備書に対する知事意見への対応状況

No.	準備書区分	知事意見	事業者見解	実施状況
3	全般	事後調査結果や施設の稼働状況等について、ホームページへの掲載だけでなく広報誌等を活用した積極的な情報公開を行い、地域住民の安心の確保に努めること。	環境影響評価の事後調査結果について、情報紙に掲載し、随時地域住民へ回覧、配布を行います。また、施設の稼働状況等について、定期的な報告会の開催、施設見学の機会を設けるなど、地域住民の皆様に十分な理解を得られるよう努めます。	環境影響評価の事後調査結果について、地域住民へ回覧を行った。また、地元地区の役員会、総会での工事進捗状況の報告や地域住民の現場見学を複数回実施し、地域住民の皆様には十分な理解を得られるよう努めた。
5	植物・動物	オニヒョウタンボク、ヤエガワカンバの移植については、湿性条件でないと活着しないため、十分に留意して移植場所の選定を行うこと。	オニヒョウタンボク、ヤエガワカンバの移植については、湿性条件等を踏まえ、十分に留意して移植場所の選定を行います。また、事後調査において移植後のモニタリングを行い、必要に応じて追加の対策を検討することとし、その旨を評価書に追記しました。	オニヒョウタンボク、ヤエガワカンバの移植については、湿性条件等を踏まえ、十分に留意して移植場所の選定を行った。モニタリングを実施した結果、オニヒョウタンボクは順調に生育しており、ヤエガワカンバは一部の枝にキノコや枯れが確認されたが、その他の枝は問題無く順調に生育している。
6	植物・動物	ベニモンマダラの食草であるクサフジの移植に当たっては、交尾や産卵時期を考慮した上で、土壌ごと移植する方法で実施すること。	ベニモンマダラに対する環境保全措置に関して、食草であるクサフジの移植にあたっては、ベニモンマダラの成虫発生時期に考慮するとともに、土壌ごと移植する方法で実施することとし、その旨を評価書に追記しました。	ベニモンマダラの幼虫の餌となるクサフジの移植にあたっては、ベニモンマダラの成虫発生時期に考慮するとともに、土壌ごと移植する方法で実施した。モニタリングの結果、生育基盤の移植先である平尾用水左岸法面では毎年生育面積が拡大しており、ベニモンマダラ成虫の確認例数は、ほぼ横ばいで確認されている。
7	植物・動物	猛禽類について、対象事業実施区域の近くで営巣が確認された場合の工期の変更等の対応について、環境保全措置に加えること。	本事業の工事の実施による影響が考えられることから、新たな環境保全措置として、対象事業実施区域の近くで営巣が確認された場合には、工事の実施時期や手順、監視体制などについて検討を行うこととし、その旨を評価書に記載しました。	環境保全措置項目に「対象事業実施区域周辺で営巣が確認された場合の工期変更等」を追加した。対象事業実施区域の近隣では営巣や繁殖を示唆する行動は確認されなかった。対象事業実施区域の周辺ではノスリの営巣を平成28年から平成30年、ハチクマの営巣を平成30年に確認したが、工事に対する警戒行動等（作業員に対する威嚇や工事の作業音に驚いて逃避する等）は確認されなかったことから、工事時期や手順、監視等についての変更は行わなかった。
8	景観	スキーシーズンにおける影響を緩和するため、法面の緑化に当たっては、専門家の助言を得て、常緑の低木の植栽等を検討すること。また、その場合のフォトモンタージュを作成して予測評価を行うこと。	スキーシーズンにおける影響緩和の観点から、法面緑化について寒地型草種による種子吹付を検討しましたが、専門家に意見を聞いたところ、当地域のような冬季の気象条件が厳しい環境においては、寒地型草種を用いた場合でも継続して緑の状態を保つことは難しく、また、最終的には在来種に淘汰されてしまうとのことでした。このため、法面の緑化については、法面保護の観点も踏まえた種子吹付を行うとともに、常緑の低木であるツツジ等を植栽が可能な法面の小段付近に配置することとしました。評価書において、検討した緑化計画に基づくフォトモンタージュを作成のうえ、予測評価を行いました。	法面の緑化については、専門家ヒアリングの結果を踏まえ、法面保護の観点から種子吹付を行うとともに、常緑の低木であるドウダンツツジ及び高木種のモミを景観保護の観点から植栽が可能な法面に配置した。

注) 知事意見は、評価書p3-3-2に記載されている「準備書に対する知事意見及び事業者の見解」において工事中に係る意見を抜粋したものである。

1.3 供用時における環境保全措置内容

調査対象事項		関連項目	環境保全措置の内容	評価書掲載頁	
施設の稼働	1	排ガス濃度の低減	大気質、土壌汚染	法令等比べて厳しい自主規制値を設定し、これを遵守することにより大気汚染物質の排出による環境への負荷の低減を図る。	大気質：p5-1-127 土壌汚染：p5-8-12
	2	適正な排ガス処理対策の実施	大気質、悪臭	施設から発生する排ガスは、消石灰、活性炭吹き込み、ろ過式集じん機（バグフィルタ）、触媒反応塔を設け、排ガス対策を講じる。	大気質：p5-1-127 悪臭：p5-5-16
	3	ダイオキシン類発生防止対策の実施	大気質	燃焼温度、ガス滞留時間等について、ダイオキシン類の発生を防止する条件を設定し、安定燃焼の確保に努めることによりダイオキシン類の発生を抑制するとともに、排ガス処理設備によりダイオキシン類を除去する。	p5-1-127
	4	適正な運転管理の実施	大気質	ごみ質の均一化を図り適正負荷による安定した燃焼を維持することで大気汚染物質の排出低減に努める。	p5-1-127
	5	設備機器の維持管理徹底	大気質	各設備は、定期点検を実施し、常に正常な運転を行うよう維持管理を徹底する。	p5-1-127
	6	排ガス濃度の監視	大気質	排ガスの常時監視を行うとともに、定期的な調査を実施して自主規制値を超えない適正な管理を実施する。 常時監視項目：硫酸酸化、窒素酸化、ばいじん、塩化水素、水銀、一酸化炭素 定期監視項目：硫酸酸化、窒素酸化、ばいじん、塩化水素、ダイオキシン類	p5-1-127
	7	排ガス濃度（ダイオキシン類）の管理	土壌汚染	燃焼濃度、ガス滞留時間等について、ダイオキシン類の発生を防止する条件を設定し、安定燃焼の確保に努めるとともに、排出ガス処理設備によりダイオキシン類を除去する。	p5-8-12
	8	ごみ減量化、分別の徹底による焼却ごみの減量化	大気質	広報、啓発によるさらなるごみ減量化に取り組むことにより、大気質への影響を軽減する。	p5-1-127
	9	対策型設備機器の使用	騒音、振動、低周波音、触れ合い活動の場	騒音・振動・低周波音の発生源強度を極力低減するよう、対策型設備機器の採用に努める。	騒音：p5-2-38 振動：p5-3-36 低周波音：p5-4-11 触れ合い活動の場：p5-15-22
	10	吸音材の設置	騒音、触れ合い活動の場	主な音源となる設備機器を設置する機械室の壁には吸音材を設置する。	騒音：p5-2-38 触れ合い活動の場：p5-15-22
	11	制振構造の採用	振動、触れ合い活動の場	主な振動源となる設備機器の取付部を弾性締結とする等、必要に応じて制振構造を採用する。	振動：p5-3-36 触れ合い活動の場：p5-15-22
	12	設備機器の工場棟内設置	低周波音	低周波音の発生源となる設備機器は、工場棟内に設置し、開口部は極力閉じた状態で稼働するよう努める。	p5-4-11
	13	高温処理による臭気の分解等	悪臭	ごみピット内の空気を燃焼用空気として吸引し、ごみピット内を常に負圧に保ち悪臭の漏洩を防止するとともに、吸引した空気は炉内に送風して燃焼させ、高温で分解することで無害・無臭化する。また、必要に応じて、ごみピット及びプラットホームに消臭剤を噴霧する。	p5-5-21
	14	悪臭漏洩防止対策の実施	悪臭	建築設備の密閉化、エアタイト扉、エアカーテン等の設置により悪臭の漏洩を防止する。	p5-5-21
	15	休炉時の悪臭防止対策の実施	悪臭	ごみピットの悪臭が休炉時においても外部に漏洩しないよう活性炭を使用した脱臭装置を設ける。	p5-5-21
	16	合併処理浄化槽の維持管理	水質	十分な処理能力を確保するため、保守点検、清掃、法定検査を適正に行い、合併処理浄化槽の維持管理に努める。	p5-6-21
	17	ごみ減量化の広報・啓発	廃棄物、温室効果ガス等	広報、啓発によるさらなるごみ減量化のための活動を行う。	廃棄物：p5-16-7 温室効果ガス等：p5-17-5
	18	分別による資源の再利用	廃棄物、温室効果ガス等	分別した資源物は資源回収業者等への売却などにより再利用（リサイクル）を行う。焼却灰等から選別できるメタル等は資源として有効利用する。	廃棄物：p5-16-7 温室効果ガス等：p5-17-5
	19	主灰・飛灰の適正処分	廃棄物	主灰及び飛灰については、溶出基準及び含有量基準を確認の上、適正に埋立処分又は資源化する。なお、飛灰については事前に安定化のための薬剤処理を行う。	p5-16-7
	20	主灰・飛灰の飛散防止	廃棄物	灰搬出車両への積替えは建物内とし、飛灰は薬剤処理を行った上で搬出する。また、搬出の際は積込部分を密閉するなどの対策を講じることにより、主灰・飛灰の飛散を防止する。	p5-16-7
	21	ごみの発生抑制	廃棄物	事務用品の再利用、備品等のリサイクル品の活用等施設の運営や管理事務に伴い発生する廃棄物は、極力発生抑制に努めるとともに、適正に処理・処分する。	p5-16-7
	22	熱回収による発電及び余熱利用	温室効果ガス等	廃棄物の焼却処理に伴い排出される熱を回収し、発電に利用するとともに、余熱についても有効利用を図る。	p5-17-5
	23	燃焼温度等の適正管理	温室効果ガス等	ごみ質や燃焼温度の管理等を適正に行い、補助燃料・副資材の消費を低減する。	p5-17-5
	24	職員に対する温暖化対策意識の啓発	温室効果ガス等	職員に対する温暖化対策意識の啓発活動を行い、省エネ、節約を心がけることでエネルギー使用量を削減する。	p5-17-5
	25	長野県の長期削減目標を踏まえた措置の検討	温室効果ガス等	施設の稼働が長期に渡ることから、県の中長期目標（30%削減）のほか、今後のごみ処理に係る計画の策定にあたっては、長期目標（80%削減）も踏まえた施策の検討を行う。	p5-17-5

調査対象事項		関連項目	環境保全措置の内容	評価書掲載頁
ごみ搬入車両等の走行	1 搬入時間の分散	大気質、騒音、振動、触れ合い活動の場	ごみ搬入車両等が一定時間に集中しないよう搬入時間の分散に努める。特に朝の通学時間帯は極力避けるよう配慮する。	大気質：p5-1-98 騒音：p5-2-30 振動：p5-3-29 触れ合い活動の場：p5-15-20
	2 交通規制等の遵守	大気質、騒音、振動、触れ合い活動の場	ごみ搬入車両等は、速度や積載量等の交通規制及び指定走行ルート、標示規制等を遵守するよう指導する。	大気質：p5-1-98 騒音：p5-2-30 振動：p5-3-29 触れ合い活動の場：p5-15-20
	3 アイドリングストップ・エコドライブの励行	大気質	出入車両に対して必要以上の暖気運転（アイドリング）の防止、エコドライブの指導及び周知を行う。	大気質：p5-1-98
	4 走行ルート等への配慮	騒音	現状において、一部の予測地点で環境基準を超過している状況を考慮し、道路管理者、関係自治体との連絡及び調整を密に図り、本事業による影響をできる限り回避及び低減するよう適切な措置を検討する。	騒音：p5-2-30
	5 維持管理の徹底	悪臭	洗車施設については、使用後の清掃等の維持管理の徹底を図る。特に、汚水については、工場棟に送水し、プラント排水と同様に処理を行った後に再利用を行い、施設外には放流しない計画とする。	p5-5-24
	6 北パラダを利用する一般車両への配慮	触れ合い活動の場	隣接するスキー場の営業期間中については、来場者が多くなる土・日曜日の搬入を避けるよう努める。	p5-15-20
建築物・工作物の存在	1 地下水水位モニタリングの実施	水象、地盤沈下	地下水水位低下の影響が考えられる地下水流向の下流側の近隣井戸等において地下水水位の変動を確認し、地下水利用や地盤沈下等に影響を与える場合には、地下水水位回復のための必要な措置を実施する。	水象：p5-7-10 地盤沈下：p5-9-3
	2 適切な建物基礎の施工	地盤沈下	建築物及び工作物の支持は、十分な支持力の期待できる地層とすることにより地盤沈下の影響範囲の最小化を図る。	p5-9-3
	3 工事中の止水壁の設置等	地盤沈下	工事中においても、止水矢板、地盤改良等により地下水水位低下の影響範囲の最小化を図る。	p5-9-3
	4 適切な建物の配置	地形・地質	建物の計画にあたっては、対象事業実施区域の一部が土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域に指定されていることを踏まえ、適切な配置を検討する。	p5-10-39
	5 適切な建物基礎の施工	地形・地質	建築物及び工作物の支持は、十分な支持力の期待できる地層とすることにより影響範囲の最小化を図る。	p5-10-39
	6 土砂災害防止法に基づく配慮	地形・地質	対象事業実施区域の一部が土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域にも指定されていることから、市町が行う警戒避難体制の整備にあたって避難情報の伝達等の協力を行う。その他、施設としての防災計画や対策についても、検討を行っていく。	p5-10-39
	7 夜間照明光拡散の低減等	植物、動物、生態系	・夜間照明の照明器具内にはルーバーを取り付け、光の照射範囲を限定することで、周辺への光漏れを低減する。 ・夜間の照明は最小限とする。 ・可能な限りセンサー式照明を用い照明使用時間を短縮する。 ・波長の長い光源（ナトリウム灯等）を用いることで、特に正の走光性をもつ動物への影響を低減する。	植物：p5-11-34 動物：p5-12-87 生態系：p5-13-44
	8 敷地内の緑地整備	植物、動物、生態系	周辺緑地との調和に配慮し、駐車場や残地緑地と一体的に緑地整備を行うなど、可能な限り敷地内の緑地整備を行う。	植物：p5-11-34 動物：p5-12-87 生態系：p5-13-44
	9 林縁植栽の整備	植物、動物、生態系	周辺緑地の保護のため、対象事業実施区域境界に、この地域の在来種を中心とした林縁植栽（ソデ・マント群落）等を施し、周辺緑地の植生の保全を図る。	植物：p5-11-34 動物：p5-12-87 生態系：p5-13-44
	10 施設色彩等への配慮	景観	施設外壁の色彩の検討にあたっては、周辺の景観に配慮しながら、地域において違和感のない色を選択する。	p5-14-26
	11 施設形状等の検討	景観	周辺環境と調和のとれた親しみやすいデザインとし、ボリュームのある建物をやわらげ、圧迫感を感じさせないものとする。	p5-14-26
	12 周辺景観と調和する緑化の実施	景観	施設外周部には景観に配慮した樹種により緑化を行うことで、景観に及ぼす影響を緩和させる。	p5-14-26
	13 スキーシーズンに配慮した法面の緑化	景観	スキーシーズンにおける影響を緩和するため、グレンデ等から眺望される法面の緑化にあたっては、小段にツツジ等常緑の低木の植栽を施す。	p5-14-26
	14 周辺建物と調和するデザインの検討	景観	強い線で角のきつい建物とならないよう対象事業実施区域の周辺建物との調和にも配慮したデザインとする。	p5-14-26

2 対象事業の実施状況に係る図面、写真

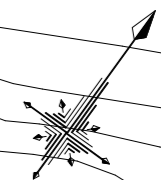
2.1 対象事業実施区域の位置図



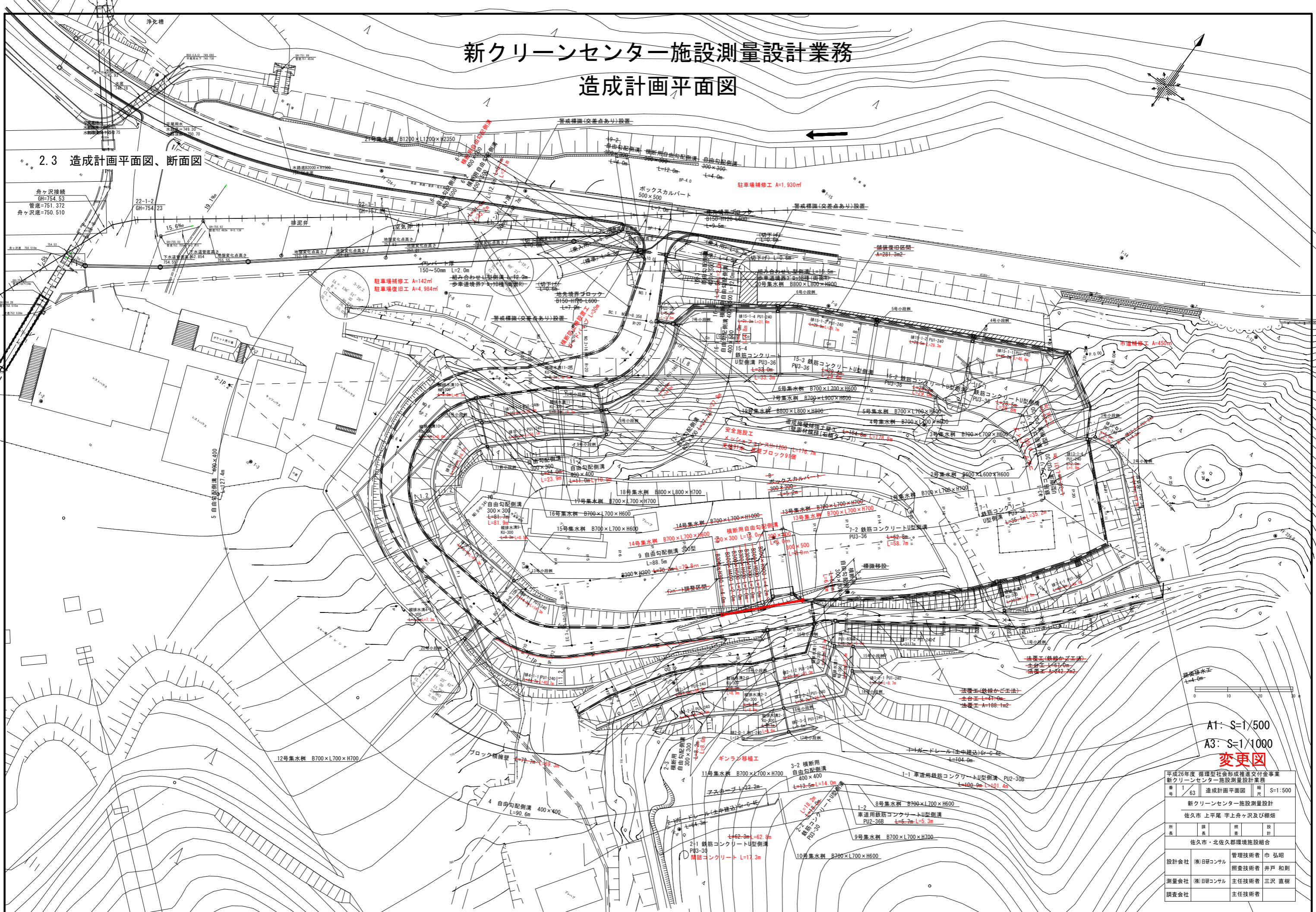
2.2 工事工程表

年度・月 項目	H28			H29			H30			H31			R1			R2																
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
造成工事																																
掘削等	■	■	■	■	■	■	■																									
擁壁工		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																					
法面工							■	■	■																							
排水工										■	■	■	■																			
法面保護工事												■	■	■	■																	
建設工事																																
土建													■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
プラント														■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
試運転																																

新クリーンセンター施設測量設計業務 造成計画平面図



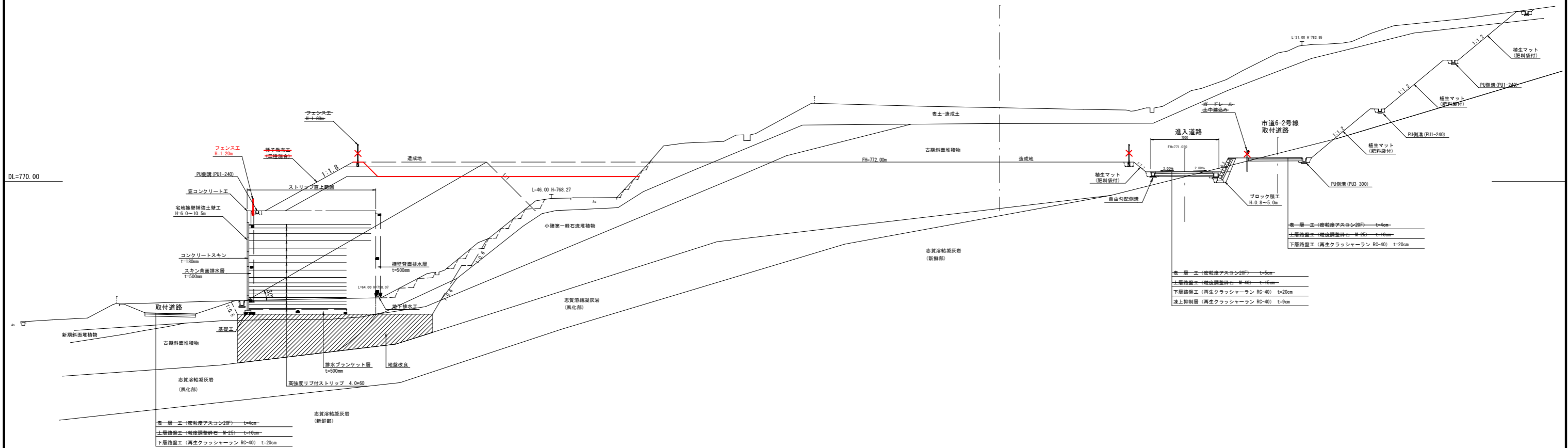
2.3 造成計画平面図、断面図



A1: S=1/500
A3: S=1/1000
変更図

平成26年度 循環型社会形成推進交付金事業 新クリーンセンター施設測量設計業務			
図号	63	造成計画平面図	縮尺 S=1:500
新クリーンセンター施設測量設計 佐久市 上平尾 字上舟ヶ沢及び棚畑			
所長	課長	主任	設計
佐久市・北佐久郡環境施設組合			
設計会社	(株)日研コンサル	管理技術者	市 弘昭
測量会社	(株)日研コンサル	調査技術者	井戸 和則
調査会社		主任技術者	三沢 直樹
		主任技術者	

土工標準断面図 S=1:200



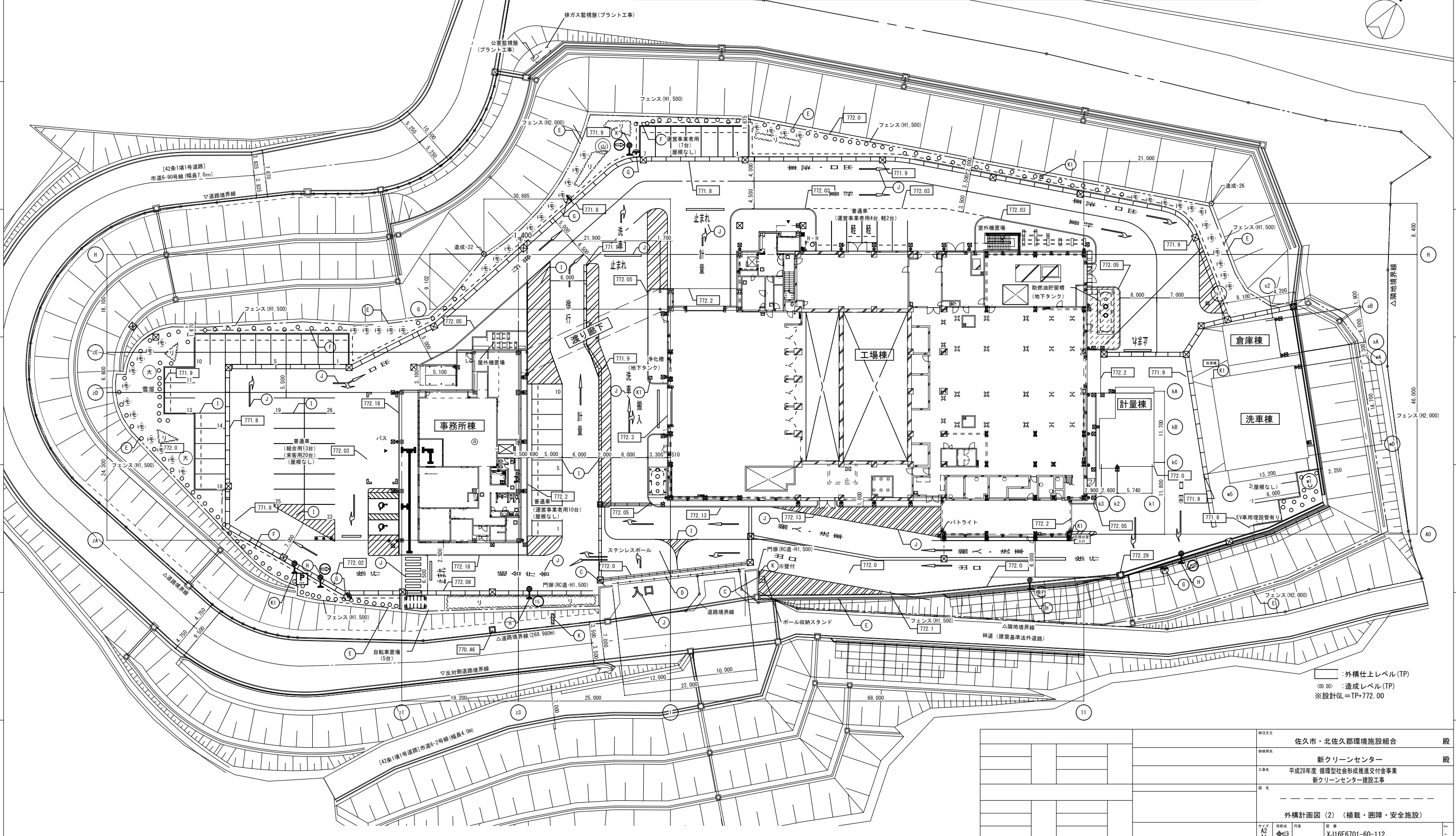
変更図

平成26年度 循環型社会形成推進交付金事業 新クリーンセンター施設測量設計業務			
番号	11/63	土工標準断面図	縮尺 S=1:200
新クリーンセンター施設測量設計 佐久市 上平尾 字上舟ヶ沢及び楢畑			
所長	課長	係長	設計
佐久市・北佐久郡環境施設組合			
設計会社	(株)日研コンサル	管理技術者	市 弘昭
		調査技術者	井戸 和則
測量会社	(株)日研コンサル	主任技術者	三沢 直樹
調査会社		主任技術者	

種別	名称	規格 (m)			数量	備考	凡例
		H	C	W			
高木	ヤマザクラ	5.0	0.2	3.0	1本	二脚鳥居支柱	(山)
高木	オオヤマザクラ	3.0	0.1	0.6	2本	二脚鳥居支柱	(大)
高木	モミ	2.0	0.05	0.6	44本	二脚鳥居支柱	(E)
生垣	ドウダンツツジ	0.9		0.4	580株	2本/m	(O)
低木	リュウキュウツツジ	0.8		0.6	250株	群生	(□)

凡例	記号	名称	規格	数量	単位	詳細番号	記号	名称	規格	数量	単位	詳細番号
(C)	—	コンクリート壁	H=1,500	15	m	G1-11	(H)	安全標識	900x600 アルミ2.0シート貼り 支柱H2,000 ST溶融亜鉛メッキ 基礎共	4	箇所	
(D)	→	門バリアード	ステンレスポールφ40×030576.3Mφ+007H850 (チェーン内蔵、差込式)	22	m		(I)	ライン引き (駐車区画、セパレーション)	溶剤系ペイント	1,250	m	
(E)	---	ネットフェンス	スチール製、H2,000+600 (逃げ返し) φ12.5φ樹脂樹脂付塗装	478	m	G1-14	(J)	路面表示図	溶剤系ペイント	図示	箇所	G1-12
(F)	---	ガードレール		241	m		(K)	案内看板	1,275x1,400 アルミ2.0シート貼り H2,400 ST溶融亜鉛メッキ 基礎共	1	箇所	G1-18
(G)	○	カーブミラー	φ400x550 SUS 支柱H2,000 ST溶融亜鉛メッキ 基礎共	4	箇所		(K1)	案内看板 (横内)	780x780 アルミ2.0シート貼り H2,400 ST溶融亜鉛メッキ 基礎共	4	箇所	G1-19

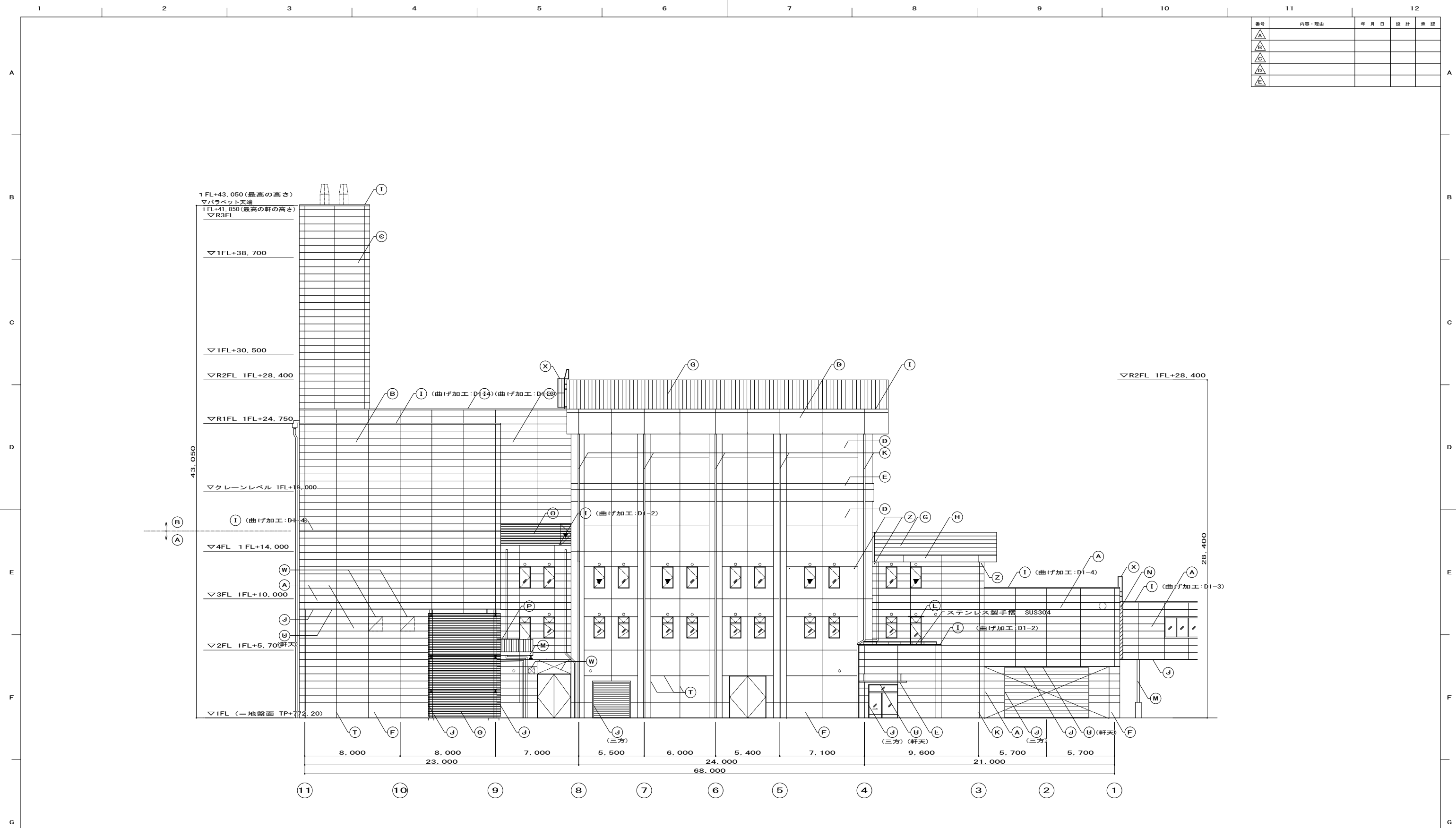
2.4 全体配置図、立面図



□ : 外構仕上レベル (TP)
 ○ : 造成レベル (TP)
 ※設計GL = TP+772.00

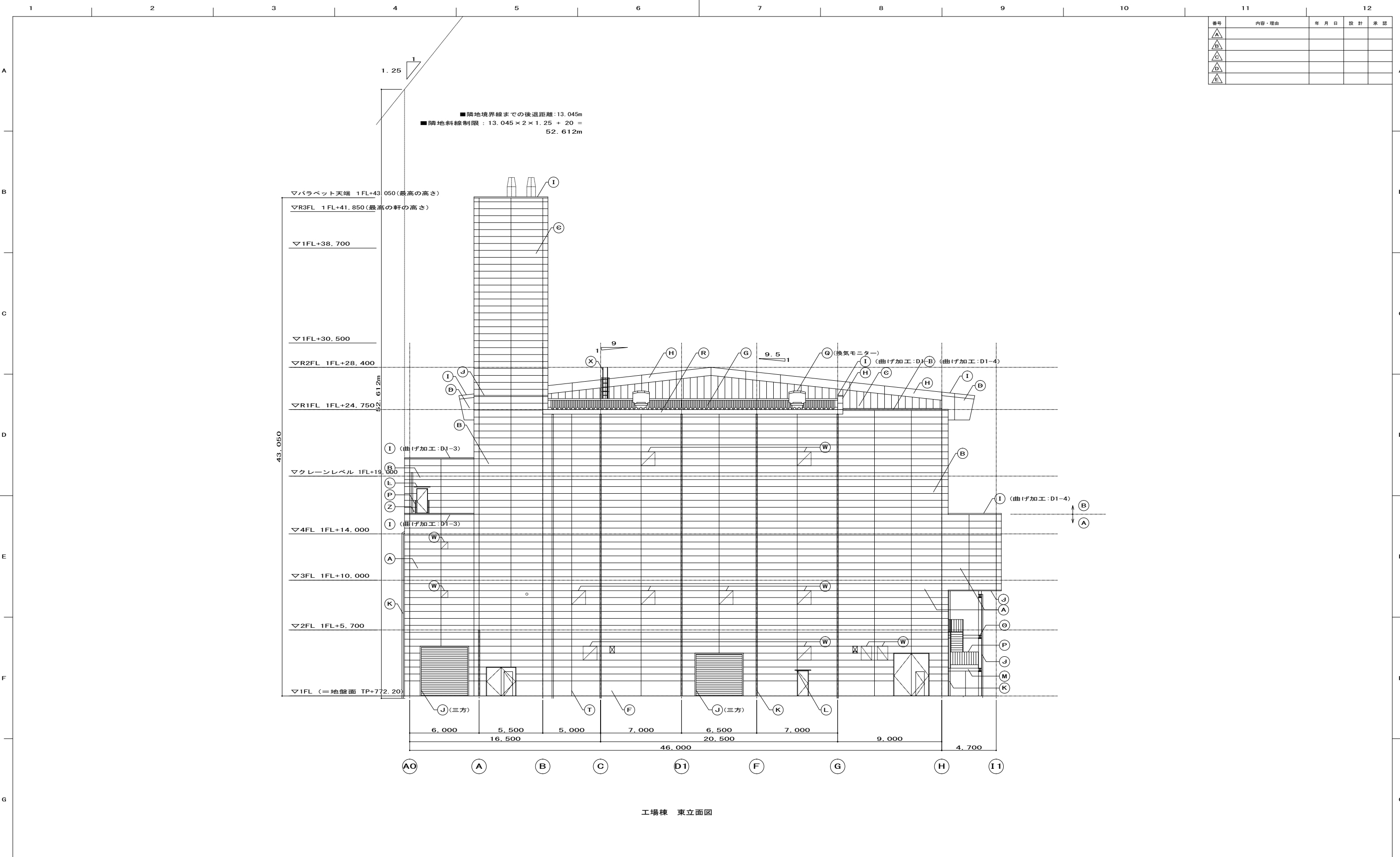
佐久市・北佐久環境施設組合 殿
 新クリーンセンター 殿
 平成28年度 循環型社会形成推進交付金事業
 新クリーンセンター建設工事

外構計画図 (2) (植栽・囲障・安全施設)
 図番 XJ16F6701-60-112



工場棟 北立面図

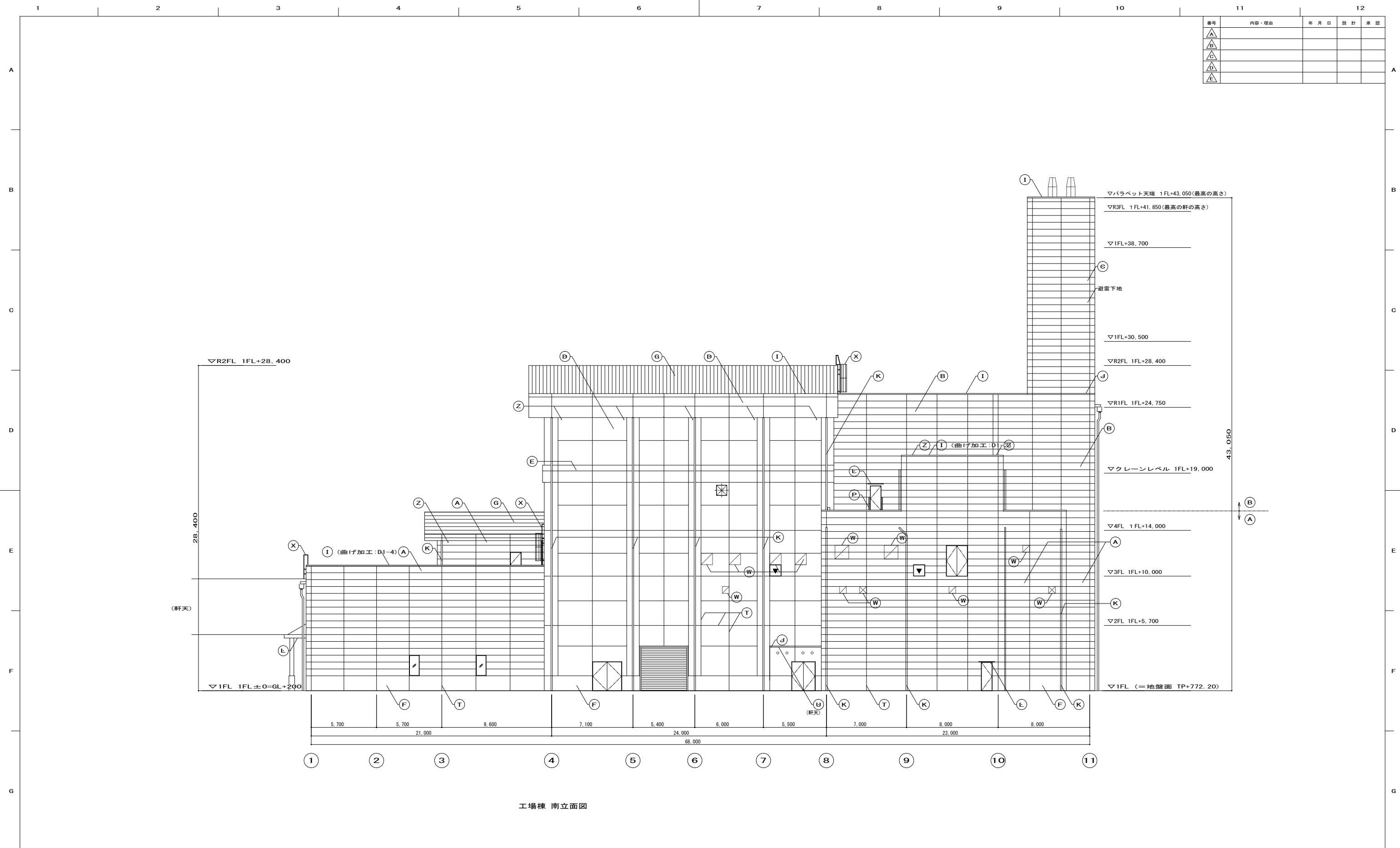
凡例				P 溶融亜鉛メッキ 手摺		V アルミスバンドレールt1.0		工務番号		製法文注	
A	ALCt120(レンガ調)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	F	コンクリート腰壁+防水形疎水材	K	壁種 カラー塩ビ	Q	換気モニター、トップライト	W	設備開口補強 <input type="checkbox"/> : プラント用 <input type="checkbox"/> : 建築用	工務名	佐久市・北佐久郡環境施設組合 殿
B	ALCt100(フラット)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	G	金属屋根	L	アルミ既製庇 B-2	R	軒種: 塩ビシート+銅板(ジョイント熱融着)+受け金物	X	SUSタラップ	製法用先	新クリーンセンター 殿
C	押出成形セメント板t60(フラット)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	H	アルミパネルt2.0 フッ素樹脂焼付塗装	M	スチール 溶融亜鉛メッキ	S	既製アルミカーポート B-2	Y	吸音パネルt100	工事名	平成28年度 循環型社会形成推進交付金事業 新クリーンセンター建設工事
D	コンクリート+防水形複層仕上塗材E	I	アルミ笠木 B-2 (特記無き限り既製)	N	アルミEXP. Jカバー フッ素樹脂焼付(指定色)	T	コンクリート目地			製法	
E	コンクリート+デザイン型枠+防水形複層仕上塗材E	J	アルミ見切りt2.0 フッ素樹脂焼付塗装	O	アルミルーバー	U	アルミスバンドレールt1.0 フッ素樹脂焼付塗装	a	設備配管支持金物[D9-9]	製法	



番号	内容・理由	年月日	設計	承認
△A				
△B				
△C				
△D				
△E				

工場棟 東立面図

凡例				工務番号			製法文注		
(A)	ALC120(レンガ調)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	(F)	コンクリート壁+防水形疎水材	(K)	珪藻 カラー塩ビ	(V)	アルミスバンドレル1.0	工務番号	製法文注
(B)	ALC100(フラット)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	(G)	金属屋根	(L)	アルミ既製品 B-2	(W)	設備開口補強 <input type="checkbox"/> プラント用 <input type="checkbox"/> 建築用	設備名	佐久市・北佐久郡環境施設組合 殿
(C)	押出成形セメント板t60(フラット)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	(H)	アルミパネルt2.0 フッ素樹脂焼付塗装	(M)	スチール 溶融亜鉛メッキ	(X)	SUSタラップ	製法用先	新クリーンセンター 殿
(D)	コンクリート+防水形複層仕上塗材E	(I)	アルミ亜木 B-2 (特記無き限り既製)	(N)	アルミEXP.Jカバー フッ素樹脂焼付(指定色)	(Y)	吸音パネルt100	工務名	平成28年度 循環型社会形成推進交付金事業 新クリーンセンター建設工事
(E)	コンクリート+デザイン型枠+防水形複層仕上塗材E	(J)	アルミ見切りt2.0 フッ素樹脂焼付塗装	(O)	アルミルーバー	(a)	設備配管支持金物[D9-9]	製法	工場棟 立面図(4)
				(P)	溶融亜鉛メッキ 手摺			サイズ	A1
				(Q)	換気モニター、トップライト			図数	1:150
				(R)	軒種:塩ビシート+銅板(ジョイント熱融着)+受け金物			製法	
				(S)	既製アルミカーポート B-2			製法	
				(T)	コンクリート目地			製法	
				(U)	アルミスバンドレル1.0 フッ素樹脂焼付塗装			製法	

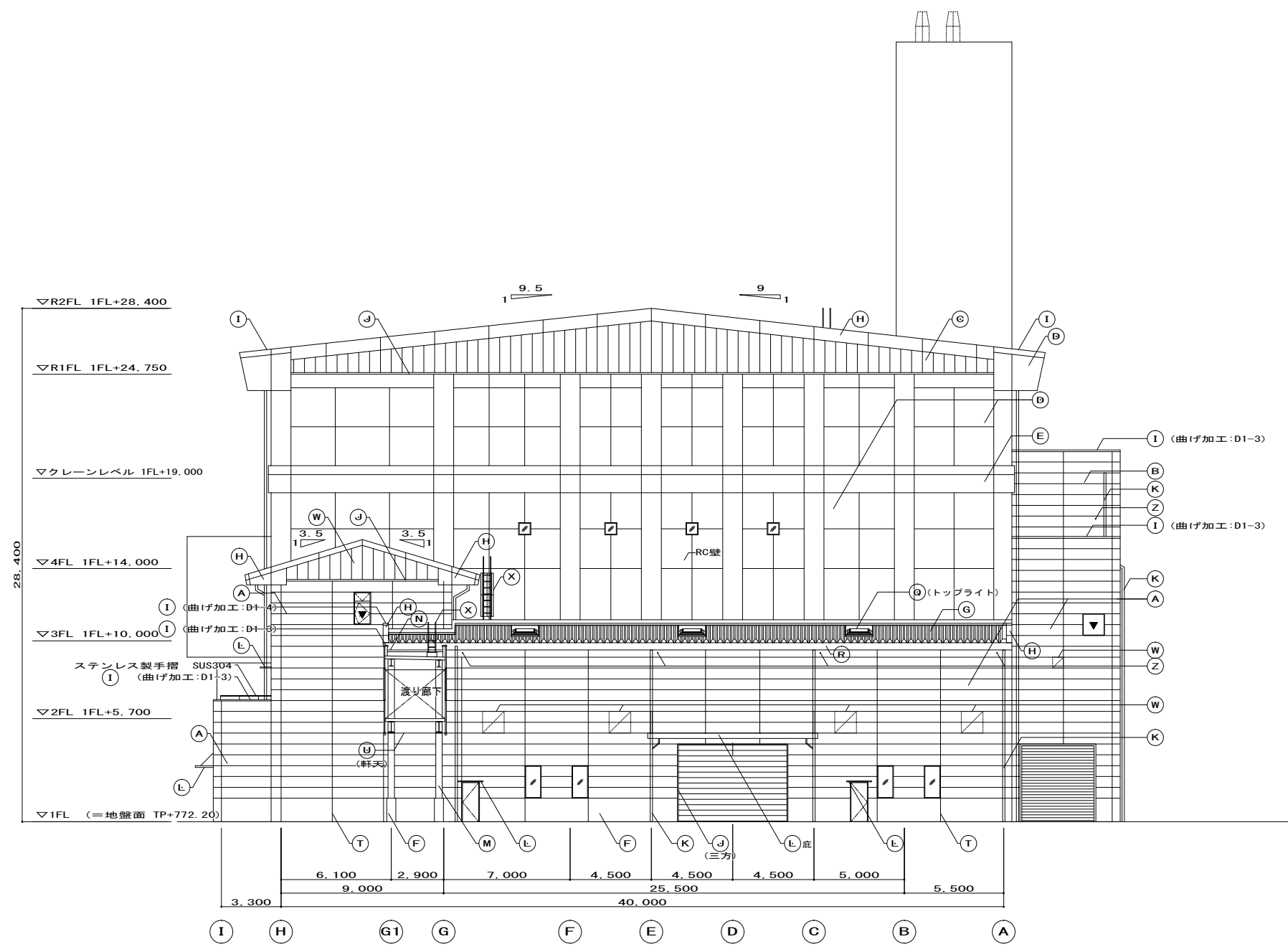


工場棟 南立面図

凡例				工務番号				製法文注						
(A)	ALC120 (レンガ調)・防水形複層仕上塗材E (透湿型)	(F)	コンクリート腰壁・防水形疎水材	(K)	珪藻 カラー塩ビ	(P)	溶融亜鉛メッキ 手摺	(V)	アルミスバンドレル1.0	工務番号	製法文注	佐久市・北佐久郡環境施設組合	殿	
(B)	ALC100 (フラット)・防水形複層仕上塗材E (透湿型)	(G)	金属屋根	(L)	アルミ既製品 B-2	(Q)	換気モーター、トップライト	(W)	設備開口補強 <input type="checkbox"/> プラント用 <input type="checkbox"/> 建築用	設備番号	製法文注	新クリーンセンター	殿	
(C)	押出成形セメント板t60 (フラット)・防水形複層仕上塗材E (透湿型)	(H)	アルミパネル12.0 フッ素樹脂焼付塗装	(M)	スチール 溶融亜鉛メッキ	(R)	軒種：塩ビシート+銅板 (ジョイント熱融着)+受け金物	(X)	SUSタラップ	事項	工務番号	平成28年度 循環型社会形成推進交付金事業		
(D)	コンクリート・防水形複層仕上塗材E	(I)	アルミ葺木 B-2 (特記無き限り既製)	(N)	アルミEXP.Jカバー フッ素樹脂焼付 (指定色)	(S)	既製アルミカーポート B-2	(Y)	吸音パネル100	承認	承認	設計	製法	新クリーンセンター建設工事
(E)	コンクリート+デザイン型枠+防水形複層仕上塗材E	(J)	アルミ見切り12.0 フッ素樹脂焼付塗装	(O)	アルミルーバー	(T)	コンクリート目地	(Z)	SUSパイプφ50 (電熱ヒーター用)	名称	工場棟 立面図 (1)			
						(U)	アルミスバンドレル1.0 フッ素樹脂焼付塗装	(a)	設備配管支持金物 [D9-9]	サイズ	製法	尺度	1:150	030-

番号	内容・理由	年月日	設計	承認
△A				
△B				
△C				
△D				
△E				

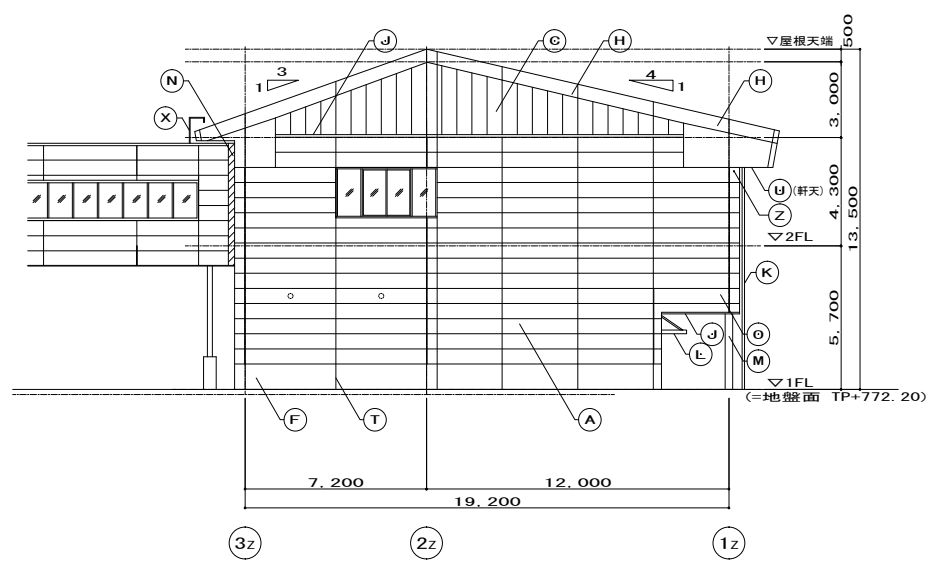
A B C D E F G



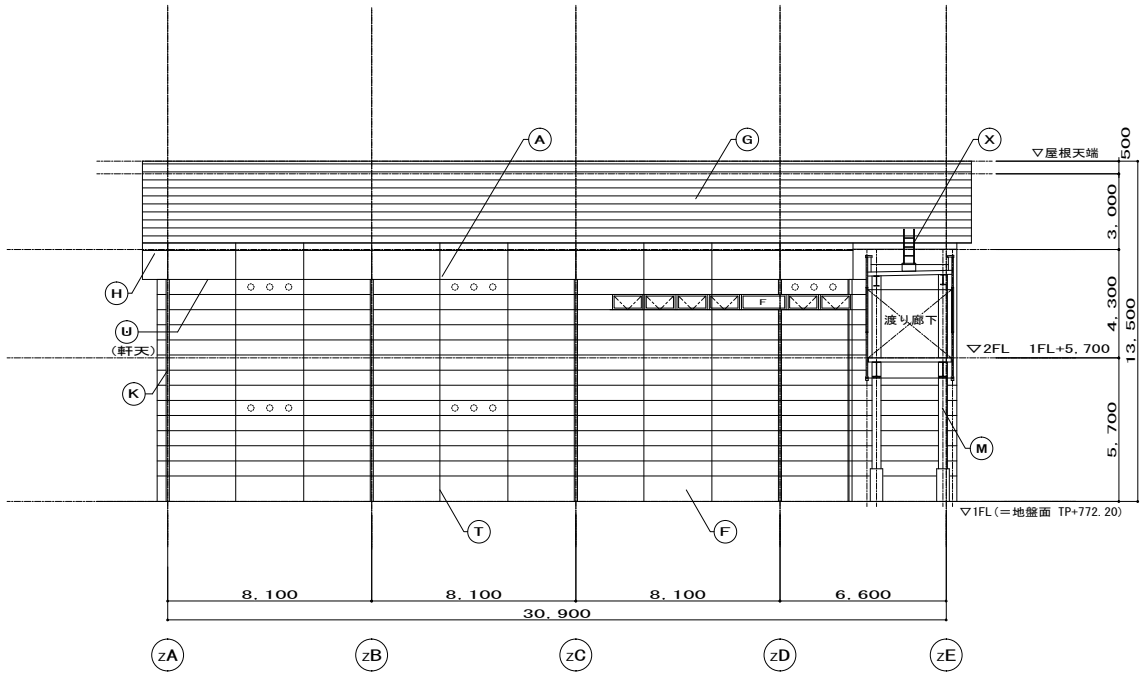
工場棟 西立面図

凡例				工務番号			製法							
(A)	ALCt120(レンガ調)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	(F)	コンクリート腰壁+防水形疎水材塗布	(K)	堅種 カラー塩ビ	(P)	溶融亜鉛メッキ 手摺	(V)	アルミスバンドレトルt1.0	工務番号	製法	佐久市・北佐久郡環境施設組合 殿		
(B)	ALCt100(フラット)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	(G)	金属屋根	(L)	アルミ既製庇 B-2	(Q)	換気モニター、トップライト	(W)	設備開口補強 <input type="checkbox"/> : プラント用 <input type="checkbox"/> : 建築用	設備名	製法	新クリーンセンター 殿		
(C)	押出成形セメント板t60(フラット)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	(H)	アルミパネルt2.0 フッ素樹脂焼付塗装	(M)	スチール 溶融亜鉛メッキ	(R)	軒種: 塩ビシート+銅板(ジョイント熱融着)+受け金物	(X)	SUSタラップ	事項	工務名	平成28年度 循環型社会形成推進交付金事業 新クリーンセンター建設工事		
(D)	コンクリート+防水形複層仕上塗材E	(I)	アルミ笠木 B-2 (特記無き限り既製)	(N)	アルミEXP. Jカバー フッ素樹脂焼付(指定色)	(S)	既製アルミカーポート B-2	(Y)	吸音パネルt100	承認	承認	設計	製法	製法
(E)	コンクリート+デザイン型枠+防水形複層仕上塗材E	(J)	アルミ見切りt2.0 フッ素樹脂焼付塗装	(O)	アルミルーバー	(T)	コンクリート目地	(Z)	SUSパイプφ50(電熱ヒーター用)	寸法	縮尺	工場棟 立面図(2)		
						(U)	アルミスバンドレトルt1.0 フッ素樹脂焼付塗装	(a)	設備配管支持金物[D9-9]	サイズ	縮尺	縮尺	縮尺	
										A1	縮尺	縮尺	縮尺	

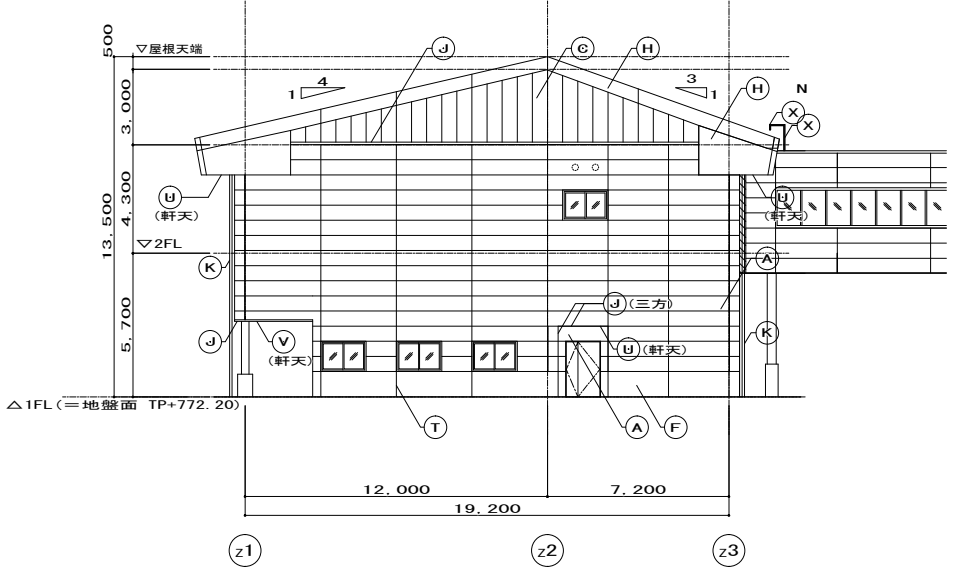
番号	内容・理由	年月日	設計	承認
△A				
△B				
△C				
△D				
△E				



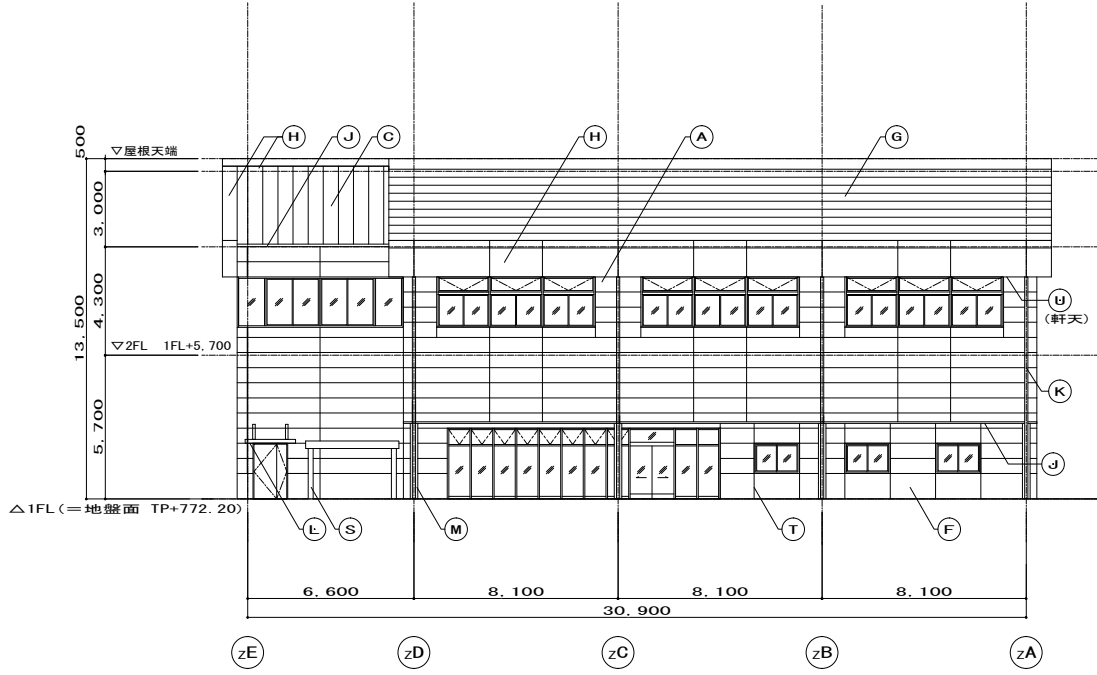
事務所棟 北立面図



事務所棟 東立面図



事務所棟 南立面図



事務所棟 西立面図

凡例				P 溶融亜鉛メッキ 手摺		V		工事番号		製法文注	
A	ALCt120(レンガ調)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	F	コンクリート腰壁+防水形疎水材	K	壁礎 カラー塩ビ	W	設備開口補強 <input type="checkbox"/> : プラント用 <input type="checkbox"/> : 建築用				佐久市・北佐久郡環境施設組合 殿
B	ALCt100(フラット)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	G	金属屋根	L	アルミ既製庇 B-2	X	SUSタラップ				新クリーンセンター 殿
C	押出成形セメント板t60(フラット)+防水形複層仕上塗材E(透湿型)	H	アルミパネルt2.0 フッ素樹脂焼付塗装	M	スチール SOP	Y	吸音パネルt100				平成28年度 循環型社会形成推進交付金事業 新クリーンセンター建設工事
D	コンクリート+防水形複層仕上塗材E	I	アルミ笠木 B-2 (特記無き限り既製)	N	アルミEXP. Jカバー フッ素樹脂焼付 (指定色)	Z	設備配管支持金物 [D9-9]				事務所棟 立面図
E	コンクリート+デザイン型枠+防水形複層仕上塗材E	J	アルミ見切りt2.0 フッ素樹脂焼付塗装	O	アルミスバンドレルt1.0 フッ素樹脂焼付塗装	a					サイズ A1 1:150
											Ver. 01

2.5 施工完了写真

■施設上空（令和2年11月4日撮影）



■施設南側 [左：事務所棟 右：工場棟、煙突]（令和2年11月21日撮影）



■施設西側 [左：工場棟、煙突 右：事務所棟] (令和2年11月4日撮影)



■施設東側 [左：洗浄棟 右：計量棟] (令和2年11月21日撮影)



■佐久スキーガーデンパラダ（北パラダセンターハウス）からの景観（令和3年1月7日撮影）



<参考>佐久スキーガーデンパラダ（北パラダセンターハウス）からの景観（評価書掲載）



■佐久スキーガーデンパラダ（北パラダゲレンデ）からの景観（令和3年1月7日撮影）



<参考>佐久スキーガーデンパラダ（北パラダゲレンデ）からの景観（評価書掲載）

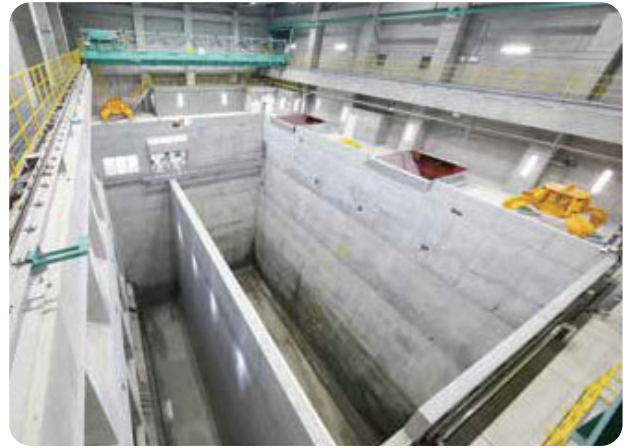


2.6 主な設備



1 プラットホーム

ごみ収集車は計量機で重さを量ってからプラットフォームに入り、ごみピットにごみを投入します。プラットフォームの出入口には、エアカーテンが設けられ、臭気が漏れるのを防いでいます。



2 ごみピット・ごみクレーン

受入ごみピットに投入されたごみは、ごみクレーンにより貯留ごみピットへ送られ、十分攪拌された後、焼却炉へ送られます。



3 焼却炉

様々なごみ質に対応してそれぞれのごみ送り速度と燃焼用空気の吹き込み量を調節することで、850℃以上の高温で焼却を行い、ダイオキシン類の発生を抑制します。



4 廃熱ボイラ

焼却炉より送られてきた排ガスの熱を利用して蒸気をつくります。つくられた蒸気は、主に蒸気タービンへ送られます。



5 エコノマイザ

排ガスの熱を利用して廃熱ボイラ用水を加熱します。



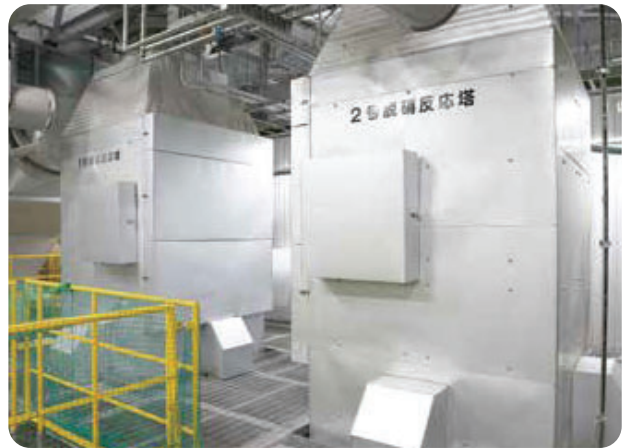
6 有害ガス除去装置

消石灰と活性炭の働きで有害な物質を取り除きます。



7 集じん器

集じん器内部に設置されたろ布(フィルタ)が排ガスの中に含まれる有害物質を取り除き、クリーンな状態にします。



8 脱硝反応塔

排ガス中に微量に残っているダイオキシン類や窒素酸化物を触媒の働きにより分解します。



9 蒸気タービン発電機

廃熱ボイラでつくった蒸気を利用して、蒸気タービンを回し、最大1,980kWの電力を発生させます。つくられた電気は施設内の電力を賄うとともに余剰電力は売電します。



10 低圧蒸気復水器

蒸気タービンの排気を冷却、凝縮させ、再び廃熱ボイラ用水として再利用します。



中央制御室

プラント設備全体の運転状況を集中監視および制御をしています。各設備はコンピュータシステムにより自動運転されています。



ごみクレーン操作席

ごみクレーン操作席からごみクレーンを運転します。夜間は自動運転します。